제505호 1910. 9. 10.

明治四十三年九月十日(土曜日) 第五百五號 (一)

(明治四十一年十二月三日第三種郵便物認可)

京城新報

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價 一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

雜錄

漢城より (七日)

熊浦逸人

▲京城民團議員の來るべき選擧を見合せたるは昨紙所報の如し、是れ民團の消滅は朝鮮併合に伴ふ必然の結果なればなり、然れども在留內地人の代議機關は他の形式に依て現はるゝことなるべし、否現はれざるべからざる也、但し吾等は今後の代議機關が、金貸業者の爲めに、其のフロックコートを着くるの機會を作らんとして設けらるゝものに非らざるを信ぜんと欲す、爾り之れを信じ而して議員選擧の見合せられたるを祝す、想ふに現に議員たる人にても吾等と感を同ふするも有るべし。▲吾等は民團制の廢止と同時に商業會議所の擴張されんことを希望す、尤も會議所議員の增員說は既に發表されたり、是も亦擴張の一方法なるべし、然れども吾等の茲に擴張といふは徒らに議員の頭數を殖すといふに止まらず、會議所の事業を擴張するの謂なり。▲惟ふに今後內地人の社會上、經濟上の事情が直ちに半島の兄弟と同斷たるべしと强ひる能はざるは、世人の等しく認むる處なり、去りながら總督府は半島人の同化を要むるが爲めに、內地人に對して多少の折讓を强要すべき理由あり、故に民團に代るべき自治機關を設くとも其を以て直ちに現在の在留民團と同一の調子を以て內地人の爲めにのみ計る能はざるべし、果して然らば內地人は社會上將た經濟上從來蒙被したる利益の幾分を割愛せざる可からざるに至らん、然かも幷は內地人の忍ぶ能はざる處なるや云ふ迄も無し、去れば其補缺は他の機關を以て之れに充つるを要す。▲商業會議所は經濟上に於ける內地人の利益を保護し增進するの機關なり、然れども內地人は從來餘りに商業會議所を蔑視せり、殆んど厄介物視せり、爲めに會議所は其任を盡す能はざるの觀無からず、若し內地人にして之れを重要視し、之れに信賴するの心あらば會議所は確かに其責を完ふするを得べし、由來日本人は自家に幾許の利益ありとも、其の公法人ならざるに於ては之れを輕視し甚だ放縱なる振舞を爲す商業會議所は原と公法人ならざるを以て又た同樣の取扱を爲しつゝあるが如し、內地人たるもの相警めて以て此の弊を矯め會議所を善用するに於ては、單に經濟上の利益を保護增進するのみならず、民團の廢止に依て失はる內地人が社會上の折讓を補ふの機關とも成るべく信ずべき理由あり、敢て會議所の事業を擴張せんことを勸告す。

雜報

八月の滿鐵收入

滿鐵會社八月中の鐵道運輸收入本線安奉線を合し總計六十八万四千三百圓九十五錢となり前年同月收入に比すれば六萬五千四百十五圓四十八錢を減じ本年四月よりの累計は四百七十九圓十八錢となり前年の累計より四十三萬三千三百十四圓九十五錢を減じたり今左に之が統計を示せば

	本線	安奉線
乘車人員	一七五、九九二	三六、二四
客車收入	二二〇、〇六五・六七	三五、六七三・九
貨物噸數	二二六、三六七	四五、八六〇
貨車收入	三五八、四三一・四〇	四四、九二三・五二
計	六〇一、二八三・二四	八三、〇三三・七一
雜收を含む一日平均	一九、三九六・二三	二、六七八・一五
一哩平均	一、一三八・一五	四三三・八六
一日一哩平均	三六・七一	一三・九六

右減收せる原因は主として線送貨物の減少せし爲めにして昨年に於ける大豆不作と其輸出が急激に出仕舞ひたるに基く處多く且つ各地防穀令影響を蒙る勘しとせず即ち貨物噸數は昨年八月に比し二萬三千四百八十九噸金額十二万四千五百八十三圓二十八錢を減じたり之に反し旅客收入は漸次好良にして同月比較四萬五千三百十六人此の賃金三万八千五百八十九圓五十二錢を增加し其他雜收入に於ても增收を見たるも貨物運賃の減少を補ふに至らず一日平均二千百十圓十七錢一哩平均百二圓九十錢を減じたり更らに四月以降の累計を對照せば本年は前年より乘車人員二十五萬三百九十三人此運賃二十七萬五千七十七圓五錢を增加し貨物に於て二萬四千八百二十一噸此賃金四十三萬三千百十四圓九十五錢を減じ一日平均二千八百三十圓八十二錢一哩平均六百八十四圓四十錢の減收となれり然るに昨年に於ては彼の運賃割戻制の實施中なりし爲め八月に於て二萬五千七百八圓四十一錢四月以降累計に於て十九萬二千百五十圓七十九錢の割戻を爲したり依て實際の減收額は八月中三万九千七百七圓七錢四月以降累計二十四万九千六百四圓十六錢の減收となる次第なり

滿鐵の農事調査

滿鐵會社は滿洲にれける邦人の農事經營に付豫て其調査を札幌農科大學教授商農學博士に託したるより同博士は過般渡滿して目下鐵道沿線の實情視察中なるか此結果に依り邦人か滿洲に於て農業を營み得べきや否又は如何にせは其經營を爲し得べき等の問題に斷案を下さるる事となるべし今日迄滿鐵附屬地若くは關東州內にれける邦人の農業者は多く躬から其業に親まず小作人或は雇人に委し自己は袖手其利を得んとする者なるを以て滿足なる成績を收め得る者少なしされど眞實之れが爲めに其身を勞し堅忍なる覺悟と不拔なる熱心を有する者は極めて良好なる結果を得つゝあり現に瓦房店にれける油井某の如き自ら鋤犁を握り苦力と共に勞役しつゝありて既に滿鐵より二十町步程の畑地を借受け之れを經營しつゝあり昨年は水害の爲め十分の成績を得ざりしも尚幾分の利益を剩し數年後は相當產を造り得べき見込ありといふ因みに滿鐵附屬地中の耕地は約二千五百万坪にして假りに一戶五萬坪を耕耘するものとせば約五百戶の農家を其沿線に移住せしめ得べしといふ

俳句

◎秋五句　多田千春

寒さうな顔や廓の朝がへり
どよめきは女衆なり木の子狩
米搗きと向ひ合せの砧かな
會心の友は世になし秋の暮
とりわけて赤きが淋し花野原

講談

大岡政談 第七十回 越後傳吉

旭堂南陵講

甚右衛門に三右衛門は表へ出ました 甚「ヤア庄左衛門爺にれ早婆ア、能くも彼んな出鱈目な事をいやアがつたナ、甚わ變なことになつて來たい、旦那どんが何だつて彼な者を殺すだ、私は今朝泉河原で見て來たい 三「然うだ〜、庄藏の野郎から見ると身體が大きい、れ梅に較べると殺されて居る女の方が身長が高けれだナ 甚「爾うだ、乃公ハア合點の行かんよがある、怪しいぞ〜何しろ郡奉行と庄左衛門とがソレ……だ 三「ハア、大きな聲でいふと此方等が捕縛られるぞ 甚「何しろ旦那どんは飛でもねヽことになつた」村へ歸ると、寶田村の傳吉旦那が召捕になつたと聞いたからワア〜と寄つて居る ○「ヤア甚右衛門、三右衛門旦那どんは何うしなさつたい 甚「何だか譯の解らね、調べ方だ、旦那どんが躓いて血が附いて居るといふだけで、庄藏、うめを殺したといふだ、彼んな正直な佛のやうな旦那どんが牢に這入つたらこの世は暗黒だ、ザア斯うなつたら構ふ事はねヽから、鎭守の森へ集つて神樣を祈れ、佛樣を祈るだ」村の者は皆正直な、傳吉に人望があるから、鎭守の森へ寄り集り神主を頼んで祈りをする、寺を集つて水を浴びるサア村の衆がワイ〜云ひ出した、甚右衛門、三右衛門がれ仙の所に歸つて來てこの話をした時に仙「ハイ、旦那どんに罪の無い事は解つて居りますだ、災難のある事もチヤンと妾等に解つて居ります、イーエ、旦那どんは必ず疑ひが晴れて歸らつしやるに違ひねでがす、此上からは妾等は旦那どんの爲に祈を致ますだ」貞心一途のれ仙が是から水垢離を取つて一生懸命に祈る、此方は傳吉其の後といふものは、汝が庄藏うめを殺したに相違なからうといふ嚴しい調べに飽まで知らぬ覺はないと云ひ張るからイヤ其方に違ひないといふので、拷問が初まつて來た、能く一口に牢問拷問を申付けると申しますが、牢問と拷問とは又違ひます、文字に書きましたら牢問とは牢といふ字と問と書く、斯りやア全く別物です、徳川の時代で牢問拷問殘らず受け掛つたといふのは慶安の丸橋忠彌、是は由井正雪の一味黨を白狀せよと老中松平伊豆守のれ聲掛で牢問拷問殘らず受ました、ところがこれを殘らず凌いだ大阪では義士で伺ひまする天野屋利兵衛、大阪町奉行松野河内守が利兵衛を調べ、拷問藏から有りと有らゆる拷問の道具を出して掛けたが、是も皆凌いだ終にはモウ道具が無くなつたから、松野河内守が表へ札をかけた「最早や拷問道具買切れ申候」イヤ豈可それ程でもなかつたらうが、兎に角凌いだ、近世では旗本で名高い小倉庵の青木彌太郎、この人物が拷問を凌ぎましたが、一時は東京で講談場なぞを初ましたこの人なぞは覺悟が宜い、自分が白狀したら盜賊の汚名を被る、死んでも宜いから盜賊の汚名だけは被まいと斯う云ふ決心で拷問にかゝる、度、モウ死ぬるのだといふ覺悟で凌いだといふ、これが有りと有らゆる拷問の我慢をした、傳吉のは白狀しなかつたら殺してしまつても宜いと責殺しても宜いといふ拷問だ、掛けたりやな二十一度の拷問、この拷問には何んな惡黨でも無き罪を白狀して、死ぬ方が樂だと口を割るを、ろの苦痛を堪へ〜た流石は傳吉近藤卜齋の言葉を守り、飽まで氣を撓まさないで凌ぎ終せる、所へ松崎の宿から中村屋與兵衛が乘込んで來てれだけの大仕事を、與兵衛の智慧袋を絞つて美事に轉覆すといふ當講談の大眼目……

제505호 1910. 9. 10.

東京電報

▲河内艦の進水式 大阪 闘艦河内の進水式は十月十五日横須賀軍港に於て行ふことに決定せり

▲富山縣下の洪水 北海 地方連日の降雨にて富山縣下の諸川出水して家屋の浸水倒壞したるもの多數あり惨狀を極む（同上）

▲獨前拓相の來京 鐵道 前拓相は十日出發瀬戸内海を經て朝鮮に赴く豫定なり（九日）

雜報

寺内統監上京期

寺内統監は本月中に上京の豫定なりしが官制發表後に延期せられたり夫迄に一切の施行を完ふして又將來の施設を立て十月十日前後に上京すべしといふ

官制案の發表期

朝鮮總督府官制案は過日の參與官會議に於て決定せるを以て既報の如く石塚參與官は寺内統監の命を啣み九日午前九時南大門發之を携帶して上京の途に就けり着京の上は直に閣議の決定を求め本月十七八日頃には樞密院へ御諮詢あるべく而して其發表は二十五六日頃なりと云ふ

地方政の大振作

從來韓國の制度は極端なる中央集權にして地方制度の如きは殆んど爲政家の一顧に價せず中央地方の政務連絡の如きは些の見るべきものなければ偶々具眼の士地方制度の改善を企畫するが如きも其の事實と去る事遠く宛然痴人の夢を談ずると一般にして其の因襲の久しき疾痼癒ず我が保護政治の施行せらるゝに於ても專ら人材を中央にのみ集聚したれば爾來中央政務の改善は大に見るべきものなるも地方行政は動もすれば閑却せられて頭大振はざるの觀ありしが今回の併合と共に寺内統監は地方政の大改善を企圖し民力の培養に努むる方針に決定したりと云ふ先づ其の第一着歩として從來の觀察道を改革して何々道廳と改稱し經驗學殖共に豐富なる長官を内地の地方長官中より招致して縱横の手腕を振はしめ現在の觀察使中の有材をば參與官に任用して道務の樞機に參劃せしめ其の他郡守等に於ては名稱も其の儘にして朝鮮官吏を採用するも日本人主事を多く任用して府郡行政の刷新を加へ中央地方相連絡統一して充分なる治績を擧ぐる筈なりと而して中央政廳に於ても此の際大縮少を行ふより現在官吏に罷免更迭あるは免かるべからざるも非行ある者の外は成るべく諭旨免官等の事なくして其の大部分は夫々各地方官廳に轉任せしむべしと

鴨綠江水運近況（木下技師の調査）

關稅局の木下技師は先日官命を以て海事々務を視察の爲め鎭南浦より新義州、安東縣、龍岩浦及び仁川等の各地に出張したるが鴨綠江の水運に關して調査せしもの左の如し

鴨綠江は清國及朝鮮の國境を劃し全長三百海里に達せるも新義州上流は沙堆連亘し水流又急激にして僅かに小形戎克船及び帆船を通ずるに過ぎず而して新義州下流江口に至る約三十海里間は是亦た沙堆隨所に連り其流域の廣大なるに比し可航の水路狹隘にして河身に於ける沙堆屢々變移せるため船舶の航行頗る至難なりとす然れども吃水十二三呎の汽船は潮進に依り容易に安東縣錨地まで進行し得べし目下安東縣に出入する大形汽船總噸數四百噸乃至千六百噸にして準定期の航海をなすもの十五隻あり其大半は芝罘を起點として關東州沿岸を經由し來れるも日本船舶之を占む又鴨綠江内の運航に從事する汽船としては何れも小形に屬し總數十四隻の内十二隻は日本船舶にして他の二隻は採木公司の所有に係り同公司の組織性質上日清兩國孰れの國籍をも取得するに至らず無國籍の儘に之を航行せしめ居れり帆船に至りては日本及び朝鮮のものを合し約二百隻の外清國に屬するものは殆んど無數にして之を算するに遑なし對岸及沿岸の交通機關としては新義州安東縣間及新義州九龍浦義州間の二線あり前者は鴨綠江渡航株式會社の經營に係り後者は義州通運會社の計畫に屬し何れも石油發動汽船を使用して相互間の運航に從事せり而して新義州九龍浦間航路は從來二隻の機船を之に充用せし由なるも目下は機關に故障ありて單に一隻を使用し一日一回の往復を爲すに過ぎずと云ふ新義州安東縣のものは三隻を使用し三十八分毎に相互の發着を爲し毎月一樣の比例は得られざるも去七月に於ての渡航者數は其往復を合して一萬四千に達せりと云ふ往來頻繁の狀態は之に依りて其の全半を覗ふに足るべし

想ふに新義州九龍浦間の航路は目下頗る振はざるもの〻如きも將來其航路を下流に向て延長し要所に寄航の上龍岩浦に至るの航路を開始せば一般に其利便を覺むると倶に逐次相當の利潤を見るに至るべきや必せり更に兩岸に輻輳せる本國朝鮮及び清國の船舶行政に就ては將來大に研究を要すべきものあるを思料す

●移民と露領及間島

過去三ヶ年間に於ける咸鏡南北兩道（四五郡を除く）より露領又は間島に移住せる朝鮮人左の如し

	四十年度	四十一年度	四十二年度
露領	五七四人	六四二人	四五六人
間島	三五一	七四一	七四八

而して右移住の原因及び其傾向は多く貧困にして衣食の金に窮したる結果止むを得ず親知故舊と離れて遠く移住地に赴く者の如し勿論中には農民にして間島の沃野に耕作するの自巳に甚だ有利なるを悟りて移住する者無きに非らずと雖も這は僅かに小部分に過ぎずして大多數は生活上より來る原因に基くは三年の統計が其の激增を示せると該兩道が近年頻りに災害を蒙むりたるに徴して頗る明瞭なりとす而して移住民一般の傾向は從來露領に移住する者多數なりしも近頃浦鹽地方にては朝鮮人排斥の聲高まり漸次朝鮮人を使役する者少なくなりたれば彼等も亦勞働と報酬の調和を失ふて迚も同地方に居住する譯合も無ければ追々移住者の遞減し來れると右統計の明示せる處の如し然るに間島方面は同土肥沃にして耕作上の收益多大なるのみならず曩時統監府派出所の設置されありて在住韓人の生命財産を保護安全ならしめたれば彼等は悦んで移住せるに至れり最も間島は土地廣濶にして住民少なく從つて小作料の如き甚低廉なれば生活頗に容易なり左れば如上の統計に示せる通り間島に移住する者年々其數を增加するに至れり而して露領に移住せる者は多く歸來するの意思あるも間島に移住せる者は絶對に歸國の意無く永久に居住するの傾向なり次に間島に移る者は農民にして露領に往く者は雜役なりと云ふ

●帝國負擔の朝鮮債

舊韓國政府の負へる國債其他一切の債務は帝國政府一般會計の負擔として整理償還を遂ぐるに決せし由なるが今其現在額を聞くに實に左の巨額を示せり

國債證券	五、〇〇〇、〇〇〇
貨幣整理資金債	三、〇〇〇、〇〇〇
同上借越	七、九七九、九一〇
金融資金債	一、五〇〇、〇〇〇
第一起業債	五、〇〇〇、〇〇〇
第二同上	一二、九六三、九二〇
起業公債	一、〇〇〇、〇〇〇
日本政府借入金	一一、六八二、六二三
計	四四、一二六、四五三

右の内無利子は日本政府借入金にして他は六分乃至七分の利率なりと云ふ

●冷藏輸送船の改良

漁業の發展する毎に魚市場と漁場との遠隔するは自然の勢なるが夏期に至り運搬に多くの日數を要する時は船中にて腐敗の恐あり其防腐方法としては從來仁川方面の漁夫は冬期漢江の結氷を取り貯藏し置き之れを使用し來りしが其方法不完全なるにより目下は之に改良を加へ稍完全の冷藏船をなすを得たりと

●成均館文廟祭執行

孔子敎會にては八日午後六時より成均館文廟に於て孔聖の秋季例祭を執行せり奠釋の禮式は朝鮮の古俗によりて行はれ頗る壯嚴を極む會長前學相李容植氏の祭文捧讀あり其間洋樂の吹奏ありて午後九時三十分終了せり出席者は李前學相以下成均館學生及儒生等約二百五十名ありしと

●統監副統監の祝賀

去る八日は李太王殿下御誕辰日に當りたるを以て寺内統監、山縣副統監は藤波通譯官を同日午後四時德壽宮に遣はし祝賀を陳べしめられしが李太王殿下には折柄來訪中の李王殿下同席にて同官を親しく接見し深く感謝の意を正副統監に傳達せんことを請はれたりと

●領事館の經費減額

今回日韓合併の結果朝鮮に於ける外國人の治外法權撤去され當地駐在の各國領事館にては何れも領事警察不要に期し從來の領事館經費に減額を來したり就中清韓領事館の如きは在留民も多數あり警務機關に要せし費用も多額也と

●清國總領事府諭告

清國總領事府は今回韓國併合の結果清韓條約の消滅を來たし治外法權の撤去となりて今後は日清條約に基き支配さるゝに至りたるを以て從來當地在留の清商が販賣せる彩票も此際中止せしめざるべからずとし數日前在留商民に諭告を發し該招牌の撤去を命じたりと

●石塚參與官の東上

連絡船不通の爲め出發延期せし石塚參與官は新官制案其他重要書類を携帶し今九日午前九時南大門發車にて東上の途に就きたり停車場には宇佐川東拓總裁、倉富、俵、小松、國分の各參與官、菊池商工局長、中川檢事正、三浦理事官、古城民長、張漢城府尹其他新聞通信記者等の見送盛んなりき

●參與官會議の例會

九日午前十一時より統監府に於て參與官會議例會あり正副統監、有吉總務長官、倉富、木内、俵、荒井、國分、小松、宇佐美の各參與官、明石警務總長、池田通信管理局長の諸氏參列諸般の政務に就き審議し正午散會せり

●國旗掲揚方の通知

祭日其の他祝日には從來日本人は日本國旗、韓國人は韓國々旗を掲揚しつゝありたるが合併の今日斯くては不都合なるを以て自今は日本國々旗を掲揚すべき樣其の筋にては各所へ通知する所ありたりと

●龜山理事官の轉任

釜山理事廳理事官龜山理平太氏は近々臺灣總督府官吏に榮轉し或重要なる椅子に就かるゝ由なり

●韓國併合の顛末書

統監府は韓國併合顛末書を印刷し普ねく内外に頒布する筈なり

●李允用氏の歸省

元首相李完用氏の實兄李允用氏は九日朝南大門發車にて郷里金泉に歸省したりと

●松井夫人の表彰 前内部警務局長松井茂氏夫人貞子は愛國婦人會釜山委員部長又は本部評議員として多年會務に盡力したる功勞尠からずとし此程同會より特に三等有功章を贈與したりと

●英國武官の巡遊 香港より來韓せる英國陸軍少佐カミレリ氏夫妻は八日獨立門景福宮市外を觀覽し九日は午前十時より昌德宮秘苑を拜觀したりと

●中山書記官東上 中山統監府書記官は石塚參與官に隨行し九日午前九時南大門發の列車にて上京したり

●谷川警視の出張 總監部谷川警視は警察事務視察の爲め全南地方へ出張

●仁川民長の祝辭 仁川岩崎民長八日入京統監へ併合の祝辭を言上したり

●築港設備委員會 十日午後二時仁川民團樓上にて築港設備委員會を開く

●龍山署管内種痘 龍山警察署は來る十月一日より秋季種痘をなすべしと

●南大門驛乘降人員 八日の分左如
乘車客 五九五 下車客 五六九
乘車賃金 一、四二一、一〇

●南大門驛の貨物 八日の分左如
發送 一三二噸 到着 四六六噸
發送賃金 七八八、五八

●龍山驛乘降人員 八日の分如左
乘車客 一九二 下車客 二〇七
乘車賃金 八九、三三

●龍山驛の貨物數 八日の分如左
發送 二二二噸 到着 二一四
發送賃金 一七〇、八三

果樹栽培の有望

朝鮮の氣象狀態は日本内地と大に趣を異にし春秋乾燥にして盛夏降雨多く天然の灌漑潤澤を極め殊に花崗岩片麻岩類よりなる土性の廣布せるを以て日本に比し天然的各種の生産要素頗る具はれり是れ韓國の風土が理想的に近く日本に比し遙かに卓越せる所以にして果樹に適合せるは明瞭なり元來果樹の最適せる理想的風土は春風乾燥にして盛夏曇天多く濕度潤澤にして土地は花崗岩片麻岩類の崩爛したる粉土を多量に含有するにあり春季の乾燥は新梢、花芽、果實に寄生する多數の黴害を防ぎ花の生殖作用を完ふし結實と反對の傾向を有する枝梢の生長を抑へ落果を防ぎ此の期間に於ける果樹果實の生育を强固に遂げしむるものなり盛夏高温に際し曇天多きときは果實の生育に不利なる過度の光力を防ぎ濕度潤澤なるときは枝梢の伸長驚くべき旺盛を極むると雖も果實は既に發育して盛んなる生理的作用を營みつゝ多量の養液を攝收する時期なれば脫落等の憂なく益肥大して枝上に固着するを以て此の期間に於ける果樹及果實は相伴ふて確實なる生育を遂ぐるものなり此期乾燥なる時は漸時地中の水分減少するに比例して樹液の循環作用鈍狀を來たし枝梢の發育は弱勢となるも葉部の蒸發力は空氣の乾燥するに伴ひ益激烈となるを以て根部の吸收水量と葉部の發散水量とは比例を失するに至る此の狀態の進むに從ひ循環養液は漸時枝梢に停止し外皮は厚層肥大して濃色となり翌年の花蕾豐產を來たし梨、苹實の如きは八月以後發育したる枝梢の葉芽となるべきものも花芽に變じ結實するに至るを以て全枝花を以て被るの現象を起すこと稀ならず又登熟中の果實は充分の養分を得て糖化分量多く肉質風味佳良の美果を生ず殊に歐洲葡萄の如きは一層秋期乾燥を好むを以て此の期間に於ける果樹果實は生育を全ふし其の特性を發揮するものなり然して果樹栽培事業の盛衰如何は結實力と品質の優劣輸出先範圍の良否如何に職由せずんばあるべからず將來朝鮮の特產物として多產良質なる歐州葡萄、西洋梨、苹實の輸出先範圍は廣大にして他に大なる競爭者なく加之輸出地は極めて近接せるを以て輸送機關の發達するに伴ひ輸送費は遞減し產物は損傷尠く容易に目的地に到達し得るの便あり其の主なる輸出地は上海、香港、滿洲、西比利亞、浦鹽地方最も有望なり（輓近北海道函館より上海へ輸出したる苹果は五萬圓に達し尚ほ累進の模樣なり）斯の如く朝鮮の果實は幸ひにして是等果實を容易に產出せしむる廣大なる消費地を有するを以て產物として販路拘塞の患尠なく且つ葡萄の如きは優等の葡萄酒釀造の見込み確なり實に朝鮮果實の前途は有望なりと云ふべし

●幼稚なる朝鮮漁業

朝鮮に於ける水產業は年々長足の進歩を以て發達し就中日本漁民の發展は更に著しきものあり今最近の調査に係る從業者數を見るに漁船は三千八百九十八艘にして漁業者は一萬六千六百四十四人を示し其收獲の年額は三百四十一萬八千八百五十圓に達せり又朝鮮人の漁船は一萬二千四百十一艘にして漁業者は六萬八千五百二十八人其收獲の年額三百十三萬九千百圓を示めせり則ち内地人の一人收獲平均は二百五圓四十錢にして朝鮮人は四十五圓八十錢なり之を兩者比較すれば朝鮮人の内地人に劣る事百五十九圓六十錢の差あるを見るを以て如何に朝鮮人の漁業の幼稚にして内地人の發達せるかを察し得べきなり而して其投資概算額は内地人三百四十一萬八千八百五十圓朝鮮人は三百十三萬九千百圓なりと云ふ

●併合後の海洲地方

黄海道海州は嚮ねて排日の巢窟として危險思想の彌漫せる地方なりしかば今回の併合條約發表に就ては必ず多少の動搖を免かれざるべく憂へたりしに事實は意外にも甚だ静穩にして數日前官憲は街民を一處に集合せしめ時勢の推移を說き本條約締結の必要なる所以を諭したるに孰れも非常の滿足を以て之を迎へ全街五百に滿たざるに二百三十餘戸の街民一齊に日章旗を軒下に掲揚し祝意を表せりと

●德積島附近の豐漁

昨今德積島の鮸漁は月に五十艘位漁獲に從事し大潮の際は一艘にて千尾以上多きは三千尾位の收獲あり而して其販路は一部は仁川に他は塩積又は前記冷藏船にて京城に供給し居れり

●連絡船復舊と船繰

連絡船薩摩丸及對馬丸は九日午前六時六連島を出帆し同日午後五時二艘共釜山入港の筈にて薩摩丸は同夜出帆の見込なり

●減水と馬山線開通

八日午前六時洛東江水量一丈〇一寸に減少し軌上面に浸水なく馬山線は同日午後より開通の見込なり

●關釜連絡船の開通

海上危險の虞あり航海休止中なりし關釜連絡船は天候漸次靜和に趣けるより九日夜航より開通せし筈

●神戸法學博士出發

來京中の神戸法學博士は八日午後釜山に向つて出發したり

公人私人

▲浦井孝德（公州財務監督局事務官）八日公州より入京山本旅館に投宿す
▲森川彌三郎（大阪會議所議員）八日安東縣より入京巴城館へ投宿
▲勝部國臣（農商務省參事官）八日釜山
▲村津寬（關東都督府囑托）八日釜山行
▲名和勝（鐵原金融組合理事）八日入京

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
九月九日	九五、六五一、五九	三三二

▲仁川米豆取引所▼

▲前場（九日）十一月一節なし▲二節九圓四十五錢五十錢四十五錢▲三節四十五錢▲出來八百五十石
▲十一月一節八圓五十五錢七錢八錢九錢六十錢一錢二錢三錢四錢三錢四錢三錢二錢一錢▲二節五十八錢六十錢一錢二錢三錢▲三節六十二錢一錢六十錢五十九錢

▲大阪期米電報▼

▲前場（九日）九月限寄十四圓二錢▲十月限寄十六錢▲十一月限寄二十錢

▲仁川港の出入船舶▼

▲群山丸 十日大阪より入港
▲筑後川丸 同大連より入港
▲高砂丸 九日入港の筈の處一日後れ十日横濱より入港
▲群山丸 十日午後五時大阪へ向出港
▲筑後川丸 同正午長崎へ向出港
▲高砂丸 同正午牛莊大連へ向出港

●取消 昨紙掲載馬山外土地處分と題する記事は誤聞の廉あり全文取消す

▲治外法權▼

去る六日の本紙に大阪毎日から轉載した寺内總督と佛教なる記事に對し、御用新聞が辯解する、本願寺別院布敎監督部が取消を出す、下らぬ事が手數を掛くることになつた▲寺内將軍が基督教宣教師を疎外し佛教の傳道に肩入を爲すべしなどとは素より有り得べからざる事だ、併し大毎の如き有力な新聞にアンナ記事が現はれるところを見るとカノ記事に對する何かの根據がなくてはならぬ▲由來東本願寺は策士の巢淵だ、此巢淵中の或者が今回の併合を機として何をたくらむかは釋迦樣にも判らぬ、寺内將軍の名が本願寺に關聯して出て來るのは偶々以て策士坊主が何かの爲に將軍の名を暗に利用し居る證據だ、將軍たるもの今の中に大谷等に戒飭を加ふべしだ▲北朝鮮に鐵道新設の計畫があるとは耳寄りの話だ、京元線、元清線、清會線、吉會線、吉長線と接續すればソレで安心なものだ、大陸政策の發展とか何とか大きな事を云つても其成効如何は實は鐵道にあるのだ▲九日發行の御用紙側面觀には官吏のヒヤカシが書いてある、曰く一時狼狽した判任官等は退官賜金を得んが爲に轉官運動を見合せて居ると、御用紙がコンナ素破拔をやるには何か仔細があろう▲一體御用紙と云へば官報も同樣なものだ、其御用紙で假令判任官なりとは云へ彼等役人の心狀がカク陋劣なものだと書立てるのは實に自殺的な話だ▲此頃は其筋の風紀改善の手が桂庵から代書人に迄及んだ、桂庵、代書人不必要な樣だが共に無くて濟まぬ機關だ、ドウカ淘汰を旨まくやつて良いの許りが殘るようにしたい▲一夜愛馬家數人が某所へ落合つた、何れも得々として馬の話をやつた、某の曰く朝鮮に名草なし、故に名馬なしと、某の曰く余の乘馬は南米アルゼンチンの乞丐の持馬に劣ると、某の曰く明白少將往年埃及に行き貸驢馬に乘つてカイロ市中を廻り、飯屋で斷られ、見世物で斷られた珍談があると▲某の曰く余諸子に大坪本流乘馬極意の歌を聞かさん、曰く馬は船、乘人は帆ばし、あぶみ舵、帆つな手つなに心浪風。

▲大阪期米電報▼
▲前場（九日）九月限寄十三圓九十七錢▲十月限寄十四圓十四錢▲後場（九日）九月限寄十三圓九十四錢止九十一錢▲十月限寄十四圓六錢止十錢▲十一月限寄十四圓十錢止

▲後場（九日）十一月限二節八圓五十[illegible]十三錢▲[illegible]五錢六錢五錢四錢三錢四錢五錢▲二節五十六錢七錢六錢五錢六錢五錢▲三節五十六錢五錢六錢七錢八錢▲出來高▲方二千七百五十石

●朝鮮農業の將來
朝鮮に於ける農業は著しき發展をなせりと雖も其の日尚ほ淺く未だ多額の收穫を見るに至らざるが農商務省芳賀農務課長は語りて朝鮮は農業に最も適當せるも民家の狀態として一戸五斗以上を[illegible]全國[illegible]の一六十万町の[illegible]三千万石に過ぎず而も其時を見る迄には尠からざる歳月を要するべく將來の見込[illegible]者珍らしからず況んや漸時進歩するにあり日本人の經營せるは數石を算するの業なれば農室の狹隘を論ずるは至愚の甚しきものなり今朝鮮に於ける日數要する事にて今予言し得ざるが來る五十年頃には尠くとも五十萬石を收穫すに日本に於ける農業者の比例を以て計算すれば百二十萬石を收め得べし[illegible]るは至るは信じて疑はざる所なり朝鮮の農業に就ては將來多大の望みを屬けり

▲大阪期米電報
▲[illegible]九月限止十三圓九十七錢▲十[illegible]四錢 ▲後場(九日)▲九月限寄十三圓九十四錢止九十[illegible]錢▲十月限寄十四圓六錢止十[illegible]錢▲十一月限寄十四圓十錢止

▲[illegible](九日)十一月限二圓八圓五十十三錢
▲仁川米豆取引所[illegible]五錢六錢五錢四錢三錢四錢五錢▲二節五十六錢七錢六錢五錢六錢五錢▲三節五十六錢五錢六錢七錢八錢▲出來高▲方二千七百五十石

●朝鮮農業の將來

朝鮮に於ける農業[illegible]の日尙は淺[illegible]發[illegible]を見るに至らざるが[illegible]務課長は[illegible]に朝鮮は農業に最[illegible]からざる歲月を要するべく將來の見込[illegible]者珍らしからず況んや漸時進步するに[illegible]の甚しきものなり今朝鮮に於ける戶數[illegible]十年頃には尠くとも五十萬石を收穫す[illegible]

[illegible]

長谷川町から旭町

▽九日自午前六時半至八時半

誰雲棚曳く空を眺めながら家を出でゝ長谷川町大通りより旭町一丁目を心指して進む、入島、朝月なんどの製造元廣江商會工場には幾多の朝鮮人が猛烈に活動して居る、其の一其の顔には生氣が滿ちて居る、其の一擧一動には生命がある、意味がある、希望がある、光明がある、長谷川町は廣江商會を有するを誇とすべしである、ミルクホールの珍好亭なる名も面白い、理事廳前を折れて旭町一丁目に入らんとす中原京城ホテル主人の車を驅つて南大門方面に向ふを見る、民團役所裏の遊園荒凉たり、何とやら云ふ煙草商店の養へる鳩の人にも恐ず街路に餌を漁る、今更ながら小森材木店の建築の永久的にして引き締れるに感じつゝ双岐路を左に貸家、小森とあるに沿ふて上る、用ありげに而して用なき朝鮮人の其所の井戶の畔に立ちて石に穴鑿る支那人の周圍に集ふを見る、此の邊り貸家札斜に貼られたるが尠からぬに加も盛んに新築工事、修覆工事、變体工事が行はれて居る、此の矛盾せるが如き現象も考へて見ると矛盾ではなくして却つて京城在住者—新來者—が眞面目に成り且つ眞面目にされつゝある反映であらうと思ふ、ツイ先日迄は奏任官連は元より判任官に至る迄官署への往復は多く車に依つたものが多かつて、從つて其の住宅を撰ぶに當つても不相應に贅澤を列べたし更らに鷸蚌の利、否、火事泥的計畫を持して押し回つた所謂有志家等は玄關の廣きを資本とした、其の時代の要求に應じて作られたる比較的大きい、誰でもがが住むに相應せざる家屋の秩序の立つた今日に於て空家となるは當然であらうもの、其の反動として手頃なる即ち大工にでも左官にでも官廳の雇や商會社の使用人にでも判任官にでも相應する住宅が必要さるゝに至つたものと僕は思ひたい、果して然らば喜ぶべきことである、高野山の前に人力車が一臺ある、其所の流に朝鮮婦人が何にやら洗濯して居る此經さんの宅の前に三歲許りの子供衆を十五六になる子守さんらしきが遊ばせて御座るのに道を敎へて貰つて佐治修治氏宅の前に出て一順京城の一部と南山の半面とに向つて少々臭い虹の如き息を吐いて旭町二丁目の方を見ると何んと云ふ家でか火の附いた如く泣いてる子供がある騰して上げたいが届かない其の少し下の方では女中が熊手で芥を掻いて御座る女子技藝學校の校庭へ潜入してるのに驚いて引き返すと門內に木挽さんが鋸の目を引いて居る側にチヨンガーが二人鋸屑を集めて旅に詰めて居る、新らしい木の香が鼻に快い、門を出て小路を右に左に待合住の江に突き當つた、恐れ入つて引き退つて元の道を民團役所の所迄戾つて扨て往來の人の帽子を見る、多く此れ麥稈帽、偶にパナマ帽を見るが西大門邊に比して高價なもの計りだ元五軒茶屋のあつた本町一丁目裏に入る、君の江と云ふのが只り殘壁に踏み止まつて居る、警察署を前に回して超然として敢て屈せず、退却を敢てせぬ勇氣は感ずるに餘りあり過る如に思つた以上の中佐治氏高野山尾崎氏等の周圍の垣には朝顔が鮮々と咲いて居た。美くしいとも美くしかつた(ほく)

當世情夫氣質(下)

▽酌婦は大抵斯樣者

流石の畑田も相手が逃げて見れば喧嘩も出來ず凄味を並べて立ち去りたるが翌六日の盆頭又もや〇万に來りしにぞ田舍家八重咲等依賴を受けたる主人連は同人に向つてはる子との關係を絶つべく談じたるがヤツサモツサの結果手切金を二十五圓に折合ひ該金は即時〇万樓主より立替へ畑田よりは自分一切はる子に關係すまじきことの書面と引き換へ手渡し芽出度事件は解決せし筈なるが一方畑田は其の金を受取ると其の足にて二葉亭に登樓し十圓餘の散財をなしたるもはる子に未練のあることとて即日御成町某洗濯屋店員京都府平民西野虎吉なるものに一杯飲ませし上其の魂膽を物語り幾分の運動費を手渡したり西野は只で飲めることなれば直ちに承諾し同日午後八時頃〇万に登樓しはる子を相手に九時過迄飲食せし後泥峴街に散步と洒落て出掛けしも何時になつても歸らざる〇万にては若しや途中にて畑田に出會せしには非ざるかと心配して夜を明したる翌七日朝西野に對し問合はせしに同人は同夜南大門通りにて畑田に出會し一寸其處迄借せとて無理に連れ行かれたりとの事に樓主は靑くなつて午前九時頃南部署の長野刑事に斯くと告げたるにぞ同刑事は豫てより注意し居たる事とて直ちに佐藤刑事と協力搜査の結果彼れ等兩人は北米倉町支那料理麗華園に宿泊し立ち去りし事を確め得たる時には既にはる子は再び畑田の掌中に丸められ他に住み替へをも承諾して何食はぬ顔して〇萬に立ち歸り居り一方畑田は大和町柴月に至りはる子を抱へよと匕首を懷に脅迫がましき文句を列べ居る旨の情報に接せしより二刑事は同所に馳せ付け直ちに取り押へたるは同日午後十時過ぎなりし去ればはる子も〇萬に居堪まらず自身中の新地開盛樓に紹介して八日より同樓に住み替へたるは前記の如し其の後畑田は取調の結果四十一年中長谷川町の清月樓酌婦宮崎ひさを恐喝して二十圓を更らに四十二年二月中二葉亭に住み替へたる當時同樓の手段を以て二十七圓五十錢を詐取したることあるものなりとか(たゞ)

馬鹿を見た亭主

▽留守中はれ世話さまかと依賴されたらとて妻君に對し夫代理迄致すとか致させる事は餘り感服せぬ事なり茲に南大門通り〇〇雜貨店附近に水田とか云ふ堅い〳〵物を商ふ家あり主人の年は三十一二の男盛りにて大坂府生れの妻政子(二三)と十四五の朝鮮人との三人暮しなるが去る六月上旬主人は品物仕入れの爲め大坂に赴く事となりしにぞ豫て懇意なる筋向ふに住へる靑物雜貨店喜多村とか北限とか云ふ獨身者の高襟男に留守中は萬事宜しく賴むと依賴したるに懇意の仲とて北村は快よく引受け萬事及ぶ限り世話す可ければ心配なく緩くり行つて來られよとの事に水田どやらも安心して上阪しぬ然るに怪しからぬは妻君政子にて北村とは夙くより親密な關係を結び居りしとかにて鬼の居らぬ留守を好い事にわらぬ契りを重ねつゝあるを例の朝鮮人に何日の間にか不審と認められたるらしきに口止め料として幾分か握らせ安心して居る二十四五日後水田が歸京の當日停車場迄北村は政子同道出迎ひたるが政子よりは北村が万事非常に世話して呉れたと物語りたるにぞ水田は厚く禮を述べ居たり然るに其の後月日を經るに從ひ一寸隙があれば政子は向ふの家に行き少しもヂツとして居ぬに流石の水田も怪しと認め或日嫉妬燒きの大喧嘩を初めしも其の時は近隣の者仲裁して落着せしが飛んで火に入る夏の虫とかに其後水田方の雇朝鮮人を北村の內に呼び貴樣が云つたらうと非常に責めたるに憤慨して留守中一切の出來事より握らせられたる事迄全部水田に知らせたるより直ちに離緣するに至りぬ然るに此の事大阪の取引商店主の耳に入り取引店主より自己の妻の始末が出來ぬ人は信用出來ぬ取引停止の通知狀來りたるより職業上一大事と大阪に至り政子の許に行き事情を話して元の通り再緣を求めしも政子は應せず致し方なく水田は取引主人に事情を述べ歸京せしが一方政子は目下旭町一丁目附近に一戶を構へ朝な夕なに北村と乳繰合ひ居るとかの噂とり〳〵

●酌婦へ說諭願ひ　廣島縣廣島市荒神町字沖の町二百三十五番地吉田兼吉長女當時京城靑葉町日進樓事橋本飛吉方酌婦吉田とみ(十九)は四十二年十一月宇品町仲通り一丁目二十七の次七久富吉太郎方へ奉公したるが吉太郎は不景氣なるより小倉外北方三笠屋へ住替させ更らに三笠屋より魚町裏通り二丁目靑柳亭に住換へしが會々京城南大門通り三丁目清月亭村山源平が小倉へ來りし時他の一人と共に百〇五圓の前借にて現抱主方へ酌婦として住み込みしが親は不承諾なるに何者の手に依りて京城迄行きしかと驚き保護願を出し貸金未成年者なれば無效を主張し居るに引換娘とみは百〇五圓の前借を返濟する迄は歸國出來ず是非とあらば父上より御支拂下さる樣御申し送り下されと申立しとは能く〳〵酌婦稼業が好きと見へたり

●朋友の金も飲む　龍山元町三丁目正木質店方に居住する大工職水島精一(二十)は龍山神明町の田井茂十郎と同一所に雇はれ居る者なるが精一は賃金十四五圓を受取り正木方に預け置きたる金二十四圓とを手にし玉川樓に居續けし居るより茂十郎は賃金の分配を請求せんと驅廻り居りしが前記の事判明し龍山署に該賃金の代りに正木方に在る柳行李にても差押へ呉れとの願出により拘引し取調中なるが餘罪ある見込なりと

●婦女誘拐者引致　平壤城內白光浩なる者は毎月京城に來り婦女を誘拐して地方に娼婦に賣飛し或は滿州地方に賣飛す等屢々にして被害者は幾百人なるか不明なるが今般又々上京して路所を徘徊して婦女を誘拐せんとし居るを南部署の探知する所となり引致して目下取調中なりと

●規則違犯者告發　仁川京町二丁目百十四番地料理店大西さき方酌婦山口縣生伊藤すゑ(二十)は九日午前二時頃密賣淫を爲したる事實を認識され告發又た雇主大西も料理店取締規則違反にて告發せらる

●仁川の類似赤痢　仁川杳洞居住の左封鉉は赤痢に罹りし疑あるを以て久木田警察醫の診斷の結果類似赤痢と診定され消毒の上患者を離隔せしむ

●池上醫院の移轉　先般壽町に開業したる醫學得業士池上要吉氏は開業早々より治療を乞ふ患者頗る多く是迄の家屋にては手狹を感ずるのみならず入院を希望する患者の意を充たすこと能はざりしを以て今回永樂町二丁目元金石館跡の家屋に移轉し病室其他萬般の設備を完全に整へ益々業務に努力しをれり因て患者に滿足を與ふることを期し因に極貧者には施料すべしと云ふ

●又しても惡戲者　八日午前九時南大門發釜山行急行列車午後五時五十分頃勿禁龜浦間を運轉中投石する者あり二等車昇降口扉の硝子を破損したり

●敷島縹客　三十二人にして費消金九十六圓八十五錢なり

目ど耳

▲壽座　大島太夫一行が最負の勸に依り二日間の日延をなしたることは既報の如くなるが愈々十日を以て打上げ歸阪すと當夜の番組左の如し
御祝儀賀之入船(登太夫、糸猿吉)碁太平記白石噺田植之段(初音太夫、糸龍市)先代萩竹の間の段(組代太夫、糸廣市)天の網島時雨の炬燵紙屋治兵衛內の段(里太夫、糸龍市)太功記十段目尼が崎の段(組榮太夫、糸廣市)三十三所觀音靈驗記壺坂の段(大島太夫、糸猿治郎ツレ廣市)

▲歌舞伎座　合同劇十日の代狂言、御祝儀「松の綠」三場「戰爭の世の中」三場「布引三段目資盛物語」三場「決鬪」四場、大切「丸山團子」三場

▲浪花館　曾つて當地壽座に開演し喝采を博したる東京落語三遊亭金馬一行は十日を以て同館に乘込み明十一日午後六時より花々敷開演すと云ふ初日番組左の如し
一ト目上り並に手踊り(金平)指寫し繪獅子の舞(金遊齋)常盤津辰稻並に浮世節(小つま)韓國實響並に音曲(市馬)りん廻し(金勝)音曲手踊り(金登喜)人情噺三社廻り浮名仇討(花園遊)曲藝一つまり(金次郎)尺八の曲松竹梅並に義太夫合奏(花堂)餘興二人羽織、芝浦皮財布(金馬)大切新作喜劇時計の分銅

▲竹園館　仁川竹園館開演中の廣八一座は毎夜堂檣運を唸らせ居るも十日より十五錢均一となし一層勉强の由

●倭城臺演奏曲目　十一日(第二日曜日)午後正六時より例の如く演奏あり曲目左の如し
△第一部　行進曲フオンテースブロー(作者ルイプリユチー)序樂ポルチレの啞女(同オーベル)舞曲黄の薔薇(同セルニック)清元團梅の春(同陸軍々樂隊)
△第二部　序樂嬉しき生涯(作者ヘンメルレー)歌劇警帝と木匠(同ロルケイング)勇氣行進(同ラタン)君が代

●基督敎靑年會　旭町四丁目なる同會に於ては十日午後七時より大谷廣治君の『人格に對する思想の異同』星野德君の『日本文明之特徵』なる講演あり

今日の運勢

九月十日 舊八月六日 一白●
●先勝 戊寅 執 三りんぼ
△一白● 障害多し叮嚀處辨を要す旅行金談起業開店●談議相談委囑效なし
△二黑● 不如意の事多し婚談共同組合謀議相談見込なし新事見合せの事
△三碧● 仕官就職委囑謀議談合に吉散財失費多き日とす
△四綠● 顯進の日起業開店入學門婚談に宜し賣買取引少しく手控への事
△五黄● 遲滯不通の日新事及示談中裁事効無し遺失防ぐべし
△六白● 利得あるか便宜ある日なり中絶不和離間を戒しむ
△七赤● 親族の學累あり其他快欣の日大抵吉
△八白● 權利利益の伸びざる日訴訟取引貸借締約上注意すべし
△九紫● 不如意不得要領に了らん新事旅行見合せの事農林業に吉
(本町五丁目三一館判斷)

●天氣豫報(自九日午後六時至十日午後六時)
東風晴後曇
八日(華氏) 最高溫度 八〇、六 最低溫度 六一、三

臨時水害救濟會寄附金募集廣告

今回の水害は近古未曾有の慘事にして其範圍頗る廣く東京神奈川、千葉、群馬、埼玉、栃木、茨城、福島、宮城、岩手、山梨、長野、新潟、靜岡、三重、愛知、秋田、山形、鳥取等の諸府縣に渉れり此等罹災地方の人民は或は其家屋を流亡し或は父母妻子離散し衣食の窮乏を訴ふるもの其數幾十萬人の多きに上り眞に痛嘆に堪へざるなり若し之を等閑視するときは飢餓に亞ぐに病疫を以てし悲慘の狀況日々增大せんとす豈急遽之を救濟せずして可ならんや是に於てか我々有志相謀り洽く天下の同情者に訴へ寄附金を募集して以て適宜各府縣に分配し救恤の資に供せんと欲す大方の篤志家諸君希くは本會の主旨を諒し奮て此擧を贊助せられんことを

明治四十三年八月　東京日比谷衆議院圖書館内

臨時水害救濟會

總裁 侯爵 松方正義
副總裁 侯爵 長谷場純孝
副總裁 男爵 澁澤榮一
常務委員 益田孝　同 林田龜太郎
同 豐川良平　同 太田峰三郎
同 中野武營
會計監督 佐竹作太郎　同 根津嘉一郎

注意

一 寄附金は金一圓以上の事
一 寄附金締切は九月三十日限りとす
一 寄附金は特に特定なき地方は左記宛便宜御郵送被成下度候
東京市日比谷衆議院圖書館内、臨時水害救濟會會計監督

新案韓語栞 全

學部大臣 李容植閣下題辭
學部次官 俵孫一君序文
學部書記官 隈本繁吉君序文
學部飜譯官 玄櫶君校閲
普通學校教監 笹山章君著

菊判總クロース金文字入美製 全壹冊
定價 八十五錢
郵稅 八錢

本書は簡明にして理解の速からん事を主とし語法の說明、配列、分類等は日本語法の骨格に則とり發音は正確穩當にして誦讀に勞せず記臆に難からず僅日にして自由に韓語を使用し得しむるは本書の特徵なり是れ著者多年研究の結果一の新機軸を出したるものなれば實に斯界の寶函と謂ふべし請ふ本書の眞價を知られん事を

發行元 京城本町三丁目
發賣 **平田善太郎商店**
（電話一一五番）

營業案内
測量及製圖機械、學術用機械、運動具各種、模型、標本類、文房具及和洋紙卸小賣

販賣所は各地書籍店にあり

牛馬犬猫 **治療所**
入院隨意
京城明治町三丁目（電話四二七番）
小川家畜醫院
院長 小川龜太郎

特約店

米國スタンダード製松印石油
下總國野田㊞印醤油
仁川日本醤油株式會社製㊞印醤油
下總國万上印味淋壜詰
尾張名古屋㊞印酢
汗浦根炭及日本木炭
英米煙草會社製品各種
神戸株式會社布引礦泉所製馬蹄印
豐後湯の花精製品（入浴用）
湯の花菓子（茶甲）瓶入各種

日韓貿易商 京城本町六丁目
分 藤富國太郎本店
電話三〇八番（ク）

其他和洋酒、米、麥、石炭、みかん、洋臘、瓦煉瓦、明太魚、鰊昆布、簾青筵、味噌、罐詰、干香、其他乾物類一式

價 三日分 廿錢
七日分 四十錢
十四日分 七十五錢

本舖 日本大阪 高橋盛大堂 代理店

調る所の藥店に販賣す
京城本町五 木下大盛堂
同南大門三 新井藥房

釀造元 **田口酒造合資會社**
韓國發賣元 **千鳥正宗仁川支店**
（電話三五九）

酒精アルコール
新荷着
仁川花町一丁目（電話六五〇番）（電界サ）
坂倉支店

入院隨意　仁川病院

院長 醫學士 由利弘
副院長 醫學得業士 長尾乙二
慈惠會醫學士 尾上早見
東京醫科大學撰科專攻 菊池徹
藥劑士 常盤光雄

電話十六番

定價表

御入用の方には無代進呈仕候

暖爐各種
並に
附屬品
煙突取附

多數御注文の節は特別勉强可致候

龍山新市街山下町一丁目（兵器支廠官舍入口）
馬木勇吉本店
電話三六四番

京城本町五丁目一番戸（商業會議所ヘ曲ル角）
馬木勇吉支店
電話四七一番

御用命 宮衙

營業科目

和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐ヂシン
穀物食鹽
諸染料類

委託販賣

東京ランバーゾ商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
仙臺[illegible]合資會社特約店

藤田合名會社

本社 京城明治町二丁目（電話二三〇番）
出張所 東京京橋南鍋町一丁目（東京電話新橋三六九二番）

御待合 紅葉
南大門通三丁目光宣門側
電話一三八二番

京城光化門通
淺田洋服店
店主 大島專藏
（電話四百十二番）

開業五週年紀念大賣出し

謹啓時下殘暑の候四方御花主樣益々御清榮之段奉大賀候陳而弊店事毎々引立を蒙り御蔭を以て日增し繁榮に赴き難有奉存候扨て當店開業正に五週年に相成候に付聊か祝意を表する爲め九月一日より十月三十日迄向六十日間紀念大賣出を致し各位の御愛顧に酬ゆる爲商品は總て正價の**一割五分引**以て特別勉强の廉價を多少に不拘御買上げの程偏に奉懇願候尙ほ地方よりの御注文品は御送付下され候へば早速引替小包にて御發送可仕候

大工道具、打刄物、和洋金物、理髮道具

京城本町三丁目
㊀友谷商店
電話一三一番

味噌醬油製造元 漬物問屋
京城本町五丁目

特約販賣自製

和洋酒、㊂精酢、穀物麵類、銘茶、罐詰、乾物食料雜貨、ビール、㊂糀、鹽辛、日本食鹽、荒物各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進

大上商店
（電話二五一番）

明治廿五年七月創立
東京海上運送火災保險株式會社
京城代辦店 本町四 山口吳服店 電話九番
資本金一千萬圓　●事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番